

第3期中期目標・中期計画

(部局名 東北アジア研究センター)

中期目標	中期計画
<p>(前文) 部局の基本的な目標</p> <p>東北アジア研究センターは、ロシア極東・シベリア、モンゴル、中国、朝鮮半島、日本を含む東北アジア地域に関する研究を東北アジア地域諸国との国際的連携の下に遂行し、地理解の増進と課題の解決に貢献することを通じて、本学の国際化に特色ある貢献をすることを旨とし、以下の目標を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 諸学の基礎研究を踏まえた、異分野の連携による学術ネットワークの拡充により、東北アジア地域研究の全国的・国際的展開を目指す。 2. 歴史資料保全活動やレーダ技術を用いた震災復興への貢献などの活動を通じて、社会貢献的研究を遂行する。 3. 機関誌や出版物、ホームページを通じて、東北アジア研究センターの国際発進力の強化を進める。 4. 広く市民に開かれた講演会・シンポジウムなどの開催により、地域研究の知縁コミュニティの形成・拡大を進める。 	
<p>◆ 中期目標の期間</p> <p>平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。</p>	
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1 教育に関する目標</p> <p>全学教育・大学院教育を通じて、高度な教養・専門的な知識に基づいた東北アジア地域理解に資する教</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p>

<p>育を行う。</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標</p>	<p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p>
<p>①全学教育において、東北アジアに関わる講義を提供する。</p> <p>②協力先大学院において、東北アジアに関わる専門教育を実施する。</p>	<p>学生の東北アジア地域に対する理解を深めさせるため、東北アジアの異文化・環境・歴史・言語などに関する全学教育科目を提供する。また大学院においても、東北アジア地域を課題とする研究を指導する。協力先大学院（環境科学研究科・理学研究科・生命科学研究科・情報科学研究科・文学研究科において専門教育を行うと共に、東北アジアに関わる大学院教育の充実に努める。またセンターに所属する分野を異にする研究室の教員が指導する学生間の交流を支援・活性化し、学生に分野間の学際的学術交流の機会を提供する。</p> <p>東北アジア研究センターで招聘する外国人研究員（客員教授・准教授）との交流や、センターが開催する国際的研究集会に学生・ポスドクを参加させることにより、国際的な研究交流の機会を提供する。</p>
<p>(2) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>①教養教育及び協力先大学院教育の実施体制等を整備・充実に協力する。</p>	<p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①-1 教養教育・大学院教育の実施体制等の整備・充実</p> <p>高度教養教育・学生支援機構との協働により、東北アジア諸言語・歴史・文化・環境に関する講義を提供する。また大学院教育を通じて、東北アジア地域理解に資する専門的知識に関する教育を行う。</p> <p>全学教育・大学院教育において東北アジア理解の増進という観点に立った講義提供を行うための改善活動を継続的に推進する。</p> <p>東北アジア研究の立場から、全学的な教育体制としての日本学などの国際共同大学院構想の立案・推進に協力する。</p>
<p>(3) 学生への支援に関する目標</p> <p>研究集会参加などを通じて、大学院学生に対して、東北アジアに関わる研究発表・交流の機会を提供する。</p>	<p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>学生の国際的な感性を育むため、センター教員が行う国際的な研究・交流活動への学生の関与を進める。招聘する外国人教員との交流やセンター教員が開催する国際的研究集会への参加など、国際交流の機会を学生に提供する。</p> <p>研究所等研究生に対して、健康診断の受診を徹底するとともに、ハラスメントなどの対策や勉学上の悩みに対応する態勢を構築する。</p>

(4) 入学者選抜に関する目標

大学院への進学や留学生の研究教育のために研究所等研究生の制度を活用する。

(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置

研究所等研究生の制度等を活用し、大学院への進学者の確保、進学準備の機会提供に努める。

2 研究に関する目標

東北アジア研究の全国的拠点として機能することを
目指す。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中・長期的な視野にたつ東北アジア地域研究のプロジェクト展開を図る。

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

東北アジアに関する新しい学際的研究領域の開拓を継続的に進める。

文理諸分野の基盤的研究を踏まえ、東北アジアの環境・社会・文化・歴史などに関する研究プロジェクトを組織し実施する。とくに環境・資源に関しては、重点プロジェクトとして実施する体制を整える。

社会貢献性の高い研究を推進する。減災研究では、レーダ技術を用いた減災活動や震災復興活動を実施する。また歴史資料保全研究では、大学院文学研究科・災害科学国際研究所と協力し、宮城県内等で地域と密着した資料保全・レスキュー活動、講演会・ワークショップを通じた教育活動を実施する。

東北アジアに関する世界的拠点として機能するために、人間文化研究機構の基幹研究プロジェクト等全国的・国際的な研究協力に参画して共同研究を実施する。

東北アジアの文理融合環境研究を推進するために、文科省補助事業「北極域研究推進プロジェクト」の参画機関として、国際的共同研究を実施する。

東北アジア諸国の研究機関との研究協力態勢を拡充するとともに、欧米などの関連研究機関・研究者との連携をも進める。国際的連携を東北アジア地域研究のためのコンソーシアム構築につなげる。

(2) 研究実施体制等に関する目標

東北アジア研究を遂行するための機動的な研究態

(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

我が国における東北アジア地域の研究拠点として機能するために、人間文化研究機構が実施する基幹研

勢をいっそう整備する。

東北アジア研究に従事する若手研究者の積極的活用を図るとともに、女性・外国人研究者の登用に努める。

全国的・国際的研究拠点としての機能を実現する体制を強化する。

究プロジェクトに参画し、同プロジェクトに参画する大学・研究組織と協力し、東北アジア研究における全国的な協力を推進するなど、拠点的功能の強化を進める。

東北アジア地域に関する全国的な研究協力態勢を確保するために、国内の組織と連携して URA 機能を活用する態勢を整える。

プロジェクト研究ユニットで雇用する教育研究支援者等の若手研究者や、海外から招聘する外国人研究員に対して研究スペース・資源の提供を行うことにより、その研究活動の環境を整える。

これまで構築してきた国際的研究ネットワークを基盤として、ロシア、モンゴル、中国、韓国等との研究交流、国際シンポジウム開催などの活動を継続的に強化・推進するとともに、欧米などの研究者との交流をも推進する。

附置研究所群、高等研究機構・学際フロンティア研究所などとの連携により、地域を研究する文理の有能な若手研究者の養成に協力する。

本学の海外拠点・リエゾンオフィスを活用しつつ、東北アジア諸国の研究機関との研究者ネットワークを運用し、学際的な研究連携を推進する。またセンターのスタッフの推薦、センター長の提案による戦略的な外国人研究員（客員教授・准教授）の招聘を行い、国際的協力のための人的ネットワークを拡充する。

東北アジア地域への関心の高まりや地域情勢の変化に対応しながら、重要性の高い研究課題を全国的な態勢で研究する研究拠点として機能するための業務運営の強化を進める。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

社会との連携、研究成果の還元のための活動を推進する。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置

地域社会や自治体などの行政と連携した研究活動を推進するとともに、東北アジア地域への関心に応えるため、市民が参加する講演・ワークショップなどの企画を実施する。

	<p>東北アジア地域に関心をもつ市民の知縁コミュニティを創出・拡充するために、仙台・東京での公開講演会や、北海道伊達市の伊達噴火湾文化研究所との連携講演会、片平まつり、くずし字ワークショップなどの活動を継続的に推進する。また文系部局と協力してリベラルアーツ・サロンの企画・運営を行う。</p>
<p>4 災害からの復興・新生に関する目標 震災復興に関わる研究プロジェクトを本センターの社会貢献的研究として位置づけ、推進する。</p>	<p>4 災害からの復興・新生に関する目標を達成するための措置</p>
<p>震災復興に関わる研究プロジェクトで得られた知見を国際社会・学界に発信する。</p>	<p>社会貢献的研究の一領域として、東日本大震災からの復興・新生、減災、歴史資料保全に関わる研究を継続的に推進し、成果を発進する。</p>
<p>5 その他の目標 (1) グローバル化に関する目標</p>	<p>5 その他の目標を達成するための措置 (1) グローバル化に関する目標を達成するための措置</p>
<p>東北アジア諸国等との国際的な東北アジア地域研究協力・交流を進める。</p> <p>協力先研究科の留学生が学びやすい環境を整備する。</p>	<p>国際的な東北アジア研究のための協力態勢を拡充するために、本学の海外拠点などの国際交流サポート体制を戦略的に活用しながら国際的研究態勢の整備を進める。</p> <p>国際発進力の強化を図るため、センターの研究活動・成果の英語・韓国語・ロシア語等による広報を強化・充実し、国際シンポジウム等の開催に利用する。</p> <p>東北アジア研究に関わるグローバルネットワークの構築を推進するために、地域研究コンソーシアムや北東アジア研究交流ネットワーク等の全国的研究協力組織との連携を強めるとともに、東北アジア諸国の研究機関との研究コンソーシアム構築を目指す。</p> <p>外国人留学生の戦略的受入れのために、研究所等研究生の制度を活用するための整備を行う。</p>

<p>東北アジア研究を通じて本学の国際化に特色ある貢献を行う。</p>	<p>センターが開催する国際シンポジウム・研究集会において、英語などの外国語による研究発表、海外の研究者との研究交流の機会を提供することを通じて、学生・ポスドク・若手研究者の国際的なコミュニケーション能力を涵養する。</p> <p>教員の採用に際して国際公募を実施するなど、外国籍教員、外国の大学・研究機関の勤務経験を有する教員の雇用を視野に入れた人事を行う。</p>
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>
<p>(1) 組織運営の改善に関する目標</p>	<p>(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置</p>
<p>センターの研究機能のより一層の効率化を図る。</p> <p>東北アジアの多様な課題に対応可能な人材の確保・活用を可能とする人事システムを構築する。</p> <p>センター長裁量経費などを効果的に活用しながら、研究費・資源の配分を行う。</p>	<p>①-1 センターの運営における明確な役割分担と最適化</p> <p>東北アジア研究の全国的な展開を視野に入れつつ、センター教員のポテンシャルを効果的に活用するために、センター長のリーダーシップのもとに効率的かつ創出的な運営体制の構築を進める。</p> <p>東北アジアの多様な課題に対応可能な研究実施体制とセンターの効率的な行政運営を構築するために、年俸制などの処遇や適切かつ教員の積極性を引き出すことのできる人事評価の実施、評価方法・基準の明確化などの方策を実施する。</p> <p>センターの行政事務への教員の積極的参加を確保するために教員評価を継続的に実施するとともに、評価基準・内容の点検・改善を行う。</p> <p>男女共同・協働の実現のために、「東北大学における男女共同参画推進のための行動指針」に基づき、女性教員比率の向上に努める。</p> <p>中長期的な研究戦略に基づき、効果的な予算編成、経費・研究費配分の策定と実施状況のチェックを行う。</p> <p>部局の予算・人的資源の状況を把握しつつ、センター長裁量経費の傾斜的配分や外部資金獲得のための助走資金の配分などの戦略的資源配分を行う。</p> <p>部局の予算・人的資源の状況を把握し、部局マネジメントに連動する資源配分を実施する。</p>

<p>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標</p> <p>学際的研究を効果的に推進することが可能な組織づくりに努める。</p> <p>事務等の業務構造の恒常的な点検・改善により、効率化・合理化を図る。</p>	<p>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置</p> <p>基盤的研究組織である基礎研究部門と流動的組織としてのプロジェクト研究部門の構成の在り方に対する点検を行いつつ、必要な場合には経費配分や人事配置の見直しなどの対応を行う。</p> <p>現場における教員と職員の意思疎通の円滑化と課題対応・危機管理において教職員の協働、機動的な対応を可能とする仕組みを構築する。</p> <p>事務態勢の効率化・分担の最適化を進めるとともに、英語などの外国語による対応が可能な組織的デバイスの整備を行う。</p>
<p>III 財務内容の改善に関する目標</p> <p>外部研究資金の適切な規模での獲得を図るとともに、外部資金申請に向けた啓発と支援を行う。</p> <p>経費の節減を徹底する。</p>	<p>III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>外部研究資金の拡充のために、センター長裁量経費による外部資金申請への助走経費の配分などを通じて獲得へのインセンティブとするとともに、教員全員が必要かつ適正な規模の外部資金を獲得するための支援を行う。</p> <p>上廣歴史資料学研究部門（寄附部門）の維持と業務の着実な遂行を支援する取組を強化するとともに、各分野において外部資金の多様化のための取組を進める。</p> <p>光熱費などの基盤的な経費の支出を最適化するとともに、調達方法や業務内容の点検・改善を行う。</p>
<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>自己点検・活動評価を継続的に行い、センターの組織・運営、研究活動の改善に活用する。</p> <p>東北アジア研究に関わるスタッフの活動や研究成果等の積極的発信を行う。</p>	<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>「東北アジア研究センター活動報告」を毎年度編集し、センター教員の活動状況を掌握して自己点検を行うと共に、外部評価を定期的・継続的に実施することにより、活動の改善を行う。</p> <p>センターの研究活動に関する情報をホームページ上で公開するとともに、センターが開催・共催する国際シンポジウム・研究集会に関する情報を全学の広報組織・大学ポर्टレートを活用しつつ積極的に発信する。</p>
<p>V その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標</p> <p>施設の共用部分の効率的、効果的な活用を行う。</p>	<p>V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>センター教員の研究活動を紹介するために、合同棟1階展示コーナーの展示内容の充実、改善を行う。</p> <p>会議室・セミナー室・資料室・学生研究室などの共用スペースの効率的な活用に努めるとともに、プロ</p>

	<p>ジェクト研究ユニットの機動的・流動的な組織へのスペース配分を強化しつつ、共用スペースの比率の向上を進める。</p>
<p>2 安全管理に関する目標</p> <p>センターの良好な職場環境と安全管理の確保を行う。</p>	<p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>安全衛生委員会の巡視結果や指摘された問題点をセンター全体会議などで周知し、問題点の解消を求め、チェックを行うことで、安全の確保に努める。</p>
<p>3 法令遵守に関する目標</p> <p>コンプライアンス等の徹底を図る。</p> <p>センターの情報基盤システムの効率化・合理化を図る</p>	<p>3 法令遵守に関する目標を達成するための措置</p> <p>公正な研究活動を推進するため、全学や部局規定に基づき、コンプライアンス委員会を中心とした態勢を整備する。研究資金を使うセンター構成員全員に対して、CITI や本学の e ラーニング受講を義務付けるなど、部局として組織的な取組を推進する。</p> <p>研究費の不正な使用を防ぐために、全学で開催されるコンプライアンス教育に係る研修会への出席を求めるとともに、e ラーニングの受講を義務化し、受講結果を点検するなどの取組を行う。</p> <p>業務の適正な運営を確保するために、各委員会の所掌事項に関わる状況を担当する執行委員がセンター全体会議で報告して周知し、問題点等の共有・点検を行う。ネットワーク委員会を中心として、情報セキュリティの確保に万全を期するとともに、全学のシステムへの統合を進める。</p> <p>執行会議を中心として危機管理機能の強化を図り、全学の避難訓練への参加や部局の事情に応じた訓練内容の点検・見直しなどを進める。</p> <p>センターの情報基盤システムを、可能なものについて全学のシステムと統合することによる効率化・合理化を図る。</p> <p>大学附属図書館と連携しつつ、東北アジア地域研究の資源としての図書資料の共有、活用のため、図書室の運営の改善と効率化を進める。</p>
<p>4 その他業務運営に関する重要目標</p>	<p>4 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p>

地域住民との連携態勢の充実を図る。

地域住民との協働の媒体としての東北アジア学術交流懇話会ホームページを充実させ、講演会などの市民向け情報発信の場として活用する。